

## 課題管理実施報告書

報告日：2010年1月 5日

プログラム	アジア科学技術の戦略的推進：アジア科学技術コミュニティ形成戦略
課題名	アジアコホート連合2009年東京会議
実施日	2009年12月 3日（木）～ 2009年12月 4日（金）
場所	国立がんセンター（東京）
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・ <span style="border: 1px solid black;">その他（会議）</span>
	展示物：有（機器・設備 パネル ビデオ上映 体験型 その他（ ）） <span style="border: 1px solid black;">無</span>
対象者	一般 学生（中学・高校・大学） <span style="border: 1px solid black;">その他（アジアコホート連合関連研究者）</span>
来場者	人数： 60名、（内訳 研究者 60名 ）
周知方法	新聞 雑誌 学会誌 メディア取材 プレスリリース <span style="border: 1px solid black;">HP</span> 、 <span style="border: 1px solid black;">メール発信</span> その他（ ）
実施者	井上真奈美 （国立がんセンターがん予防・検診研究センター予防研究部予防疫学研究室 室長）
内容	<p>本会議は、アジア疫学研究関係者を中心に発足したアジアコホート連合（Asia Cohort Consortium）の活動を推進していくために開催される会議で、2009年12月3-4日に東京において開催された。会議には、これまでの2倍にあたる60名の参加があり、タイやインド、イランなどの新しいコホート集団関係者も加わり、アジア地域におけるコホート研究のネットワークや共同研究に関連する議論が活発に行われた。</p> <p>具体的には、1）アジアにおいて最近新しく設定されたコホート集団及び既に既存集団についての現況に関する情報共有、2）ゲノム研究を主体としたコホートの現況とアジア諸国間ネットワークの可能性、3）アジアにおける栄養などのデータベースの構築の方法に関する討議と、4）アジア人に特有の生活習慣や体質と死亡やがん等の主要な疾病との関係に関する統合解析研究について、実際の解析結果や論文文化に向けた具体的活動計画が提示された。本会議の開催により、今後の研究を具体的に実現していく上での課題や問題点が明確となり、今後の疫学研究のアジアネットワーク強化を見据えた、アジアコホート連合としての活動の重点が明確化された。</p>
効果、問題点、今後の展望と課題	<p>本会議では、特にこれまで経済的理由により国外の会議に参加できなかったアジアの疫学研究者が会議に参加し、同じ土俵で議論に加わったことにより、アジアにおける疫学研究連合の規模と情報共有量が拡大した。これは、疫学研究や基盤となる疾病関連データベースや登録システムの各国の実態に関する情報の更新、国際水準におけるアジアの疫学研究レベルの客観的な評価、また、類似の課題を抱えるアジア諸国との情報交換による問題の打開策の具体化に貢献した。これは、最終的には、アジアにおける疫学研究全体のレベルアップにつながるものである。</p> <p>しかしながら、本会議の成果は、今後、アジアコホート連合におけるアジア諸国間の情報共有と物的人的ネットワークが、現在以上に強化されてこそ実現するものである。今後も、会議の開催を継続し、アジア諸国の研究者に、実際に同じ土俵に加わる機会を作っていくことが重要であり、そのためには、アジア諸国内で相対的に経済的に豊かな国が旅費を支援するなどの、具体的方策を講じていく必要がある。</p> <p>また、本会議は、交流のための単発のイベントではなく、あくまで、アジア諸国間</p>

	<p>での疫学研究のデータの共有化や統合解析にむけた継続的な課題を有している実務的会議と位置づけられる。アジアにおける研究の連合やネットワークを発展させていくためには、単発の会議に対する支援のみではなく、アジアコホート連合のような研究活動基盤そのものに対する研究費の枠組みが不可欠であると考えられる。</p>
--	--